

エッセイ

目白の杜から「その三」

愛子内親王と

閑院宮家

忌部 守

はじめに

注目されていた愛子さんの進学先が決まった。当初、父親である今上天皇と同じ文学部史学科であるとか、最近では母親である雅子皇后の影響で、学習院ジョシの間では人気のある国際社会学部であるとか予想されていたが、結局はいずれでもない文学

部日本語日本文学科に決まった。

ある女性週刊誌によれば、愛子さんは初等科卒業時に書いたレポートが「藤原道長」で、その中には「授業で道長について学習した時に、その日記『御堂閑白記』について知り、それを実際に博物館で見たとときに、これ程古い（十一世紀初頭）日記がよく残っているものだと驚いた」と書いたという。いずれにしても、愛子さんは歴史に興味があるようだ。私も四月からは大学院博士課程に進むので、学内の何処かでお会いできるかもしれない。

ところで、今回のテーマは「閑院宮家」であるが、実は愛子さん一家が閑院宮家の後裔である事をご存知だろうか？ 一般に

「宮家」には二種類あり、一つは天皇の兄弟や子女で、独立あるいは結婚により名乗る直宮家で、

昭和天皇の兄弟が秩父宮・高松宮・三笠宮、平成天皇の兄弟が常陸宮、今上天皇の兄弟が秋篠宮であり、もう一つは近世以前から続く伏見宮・桂宮・有栖川宮・閑院宮の世襲四親王家があり、原則的に男子の後継者がなければその宮は廃止される。前者であれば天皇との血筋は近いが、後者から次の天皇が出れば血筋は遠いという事になる。そして、戦後は後者の宮家は廃止されて、現在は直宮家のみという状況である。

一．光格天皇はなぜ即位できなかったか

『武士の家計簿』を書いた磯田道史氏が司会・監修を務めるテレビ番組『英雄たちの選択』を私はよく見ているが、武田勝頼や徳川家康などの歴史的人物の再評価を試みており、そのすべてが妥当ではないだろうが、中々に面白い。幕末直前の光格天皇もその一人で取り上げられた。曰く、幕末史は孝明天皇時代の尊王攘夷から見るのが定番であるが、実はその二代前の光格天皇から見る必要がある、というのだ。

光格天皇は、江戸時代を通じて貧弱であった京都御所を、幕

府と交渉の上で平安時代風に豪華に造り替えたり、天皇家の有職故実を復活させたりしたが、最大の功績は、幕府・將軍の上に朝廷・天皇がいるという歴史的事実を、庶民に至るまでに思い出させたという事にある。そしてこれが、その後の尊王攘夷運動に影響を与え、また外国との条約締結には天皇の裁可が必要という認識をもたせさせた。さらには、朝廷の貴族の教育機関として、京都御所の隣に学習院の創設を考えたのも、光格天皇であった（設立は、孫の孝明天皇の時代）。

幕府側から見れば、征夷大將軍は天皇によって任命されるのであるから、天皇の地位・権威が上があれば將軍の地位・権威も上がるはずと割り切ったのであるが、周りから見れば將軍より天皇の方が偉い、という事実を再認識させる効果をもたらせた。さらに、興味深いことには、光格天皇は当初天皇になる予定はなかったという事実である。

男系だけで、一家を継承していくことは歴史的にも、生物学的に見ても難しい。したがって、

日本の一般の家では養子制度が発達している。天皇家は、側室制度があつたにも拘わらず過去に何度となく皇位継承が難しかった時期があるが、実は江戸時代にもあつた。徳川將軍でさえ、八代吉宗以降は傍系の紀伊徳川家の出身であつて、秀忠の家系ではない。

二、閑院宮家の創設

明和七年（一七七〇）に第一百十八代後桃園天皇が即位した後、後継候補者が内親王のみとなり皇位継承が危ぶまれたが、現在と違つて江戸時代には既に述べた通り、世襲親王家があつた。したがって、内親王を次の一代限りの女帝とするか、あるいは世襲親王家から天皇を出すという選択肢があつた。しかし、伏見宮の創設は室町時代、桂宮は秀吉の時代、有栖川宮は寛永二年（一六二五）と、有栖川宮でも創設から既に百年以上経過しており、天皇家との血筋は遠い。

幸運なことに、最後の世襲親

王家である閑院宮家が宝永七年（一七一〇）に創設されており、結局、閑院宮家から第一百十九代光格天皇が即位した。この光格天皇は、第一百十三代東山天皇のひ孫にあたり、血筋の近さもまず問題はない。こういう説明をする、別に宮家を新たに創設しなくても、天皇の兄弟の家系で男子を探せばよいではないかとお考えになると思うが、実はそれが出来ない。この時代は、天皇家でも、近衛家や九条家などの公家でも、家の後継者が決まるとそれ以外の男子は寺に入れる。それが、門跡寺院の実態であるという事になるが、要は家の食い扶持を少なくするため後継者以外は僧侶にするのであるが、僧侶になれば、浄土真宗を除いて妻帯はしないのでその子孫を作らせないという意味もある。僧侶になつても、室町將軍のように還俗という手もあるが、天皇家の場合は一旦、臣籍降下した者を皇族に戻す事になるので難しい。だから、安定した皇位継承のために、宮家を創設して置くのである。

さて、本論に戻つて、宝永七

年（一七一〇）になぜ新しい閑院宮家が創設されたのであろうか。実はあの有名な新井白石が、六代將軍家宣に將軍家永続のためには天皇家の存続を保障する必要があると建議した結果、東山天皇の第六皇子を初代として「閑院宮家」が創設されたと言われている。白石には先見の明があつたという訳だが、將軍家における家綱・綱吉の兄弟相続の難しさを見てのことかもしれない。新宮家の創設には、お金も掛かることから幕府の承認がなければ出来ない。結局、その六十九年後に光格天皇が閑院宮家から誕生した。その後、皇位は仁孝・孝明・明治・大正・昭和・平成と直系継承された訳であるから、愛子さんは閑院宮家の後裔と言つてもおかしくはない事になる。現在抱えている問題は、宮家が限られている中で皇位継承の難しさだろう。

三、現在の京都御所は平安朝風か

光格天皇が京都御所を平安朝風に造り替えたと前に述べたが、

それでは現在の京都御所の建物は、紫式部や清少納言のいた頃のものと同じと考えてよいだろうか。京都御所は、四年前から事前申し込み不要の通年公開となっており、誰でも無料で見学できる様になった。当日受付の無料ガイドもあるので、是非訪れてほしい。

まず、京都御所の場所が、昔の平安宮の内裏のあった場所ではない。平安宮は現在よりも二キロほど西、平安京の北端中央部にあった。平安京の西側（天皇から見て右京）は湿地帯があったので、現在の京都御所は、南北朝頃に東側の左京に移転した。移転した先は、藤原氏の邸宅があった里内裏の場所である。次に、平安時代の建物は寝殿造りであったが、江戸時代には既に寝殿造りの造営方法や建築構造が完全には分からなくなっていた。応仁の乱などで、古建築がほとんど焼けてしまった事が大きいだろう。したがって、儀式を行なった紫宸殿や天皇の住居であった清涼殿などは、平安朝風江戸時代建築といってよい。具体的にどこが違うかというと、

まず紫宸殿の屋根が高すぎる。【参考文献】

尾垂木という組物が使われてい、『女性自身』二〇二〇年
のためで、寝殿造りに、禅宗寺 一月二十一日号

院建築や書院造りがミックスし、『歴史読本』二〇〇六年

ており、ある意味他にはないユ 十一月号・特集「天皇家と宮家」

ニークな建物であるとは言える。『茶の間』二〇二〇年一月号

ただ屋根は今でも檜皮葺になっ・三好和義『京都御所』

ている。ほかには、構造の違いと 朝日新聞出版

以上

して、例えば二重虹梁の上に葺
股を置くといういかにも江戸時
代風になっている。例外は、御
所の中で最も古い様式を残して
いると言われる飛香舎（ひぎょ
うしゃ）では、虹梁の上の中央
に束を立て斜めのさすを使用し
ている。奈良の寺院でも見られ
るものだ。つまり、ファッショ
ンにも流行があるように、建物も
時代の雰囲気を残しており、簡
単には真似ができないもので興
味深い。

京都御所を訪れて頂く際には、
是非ともその東隣に立つ「京都
御所学習院跡」の木札を探して
頂く事もお忘れなく。

